

2020年4月5日付 韓国環境部プレスリリース

京畿道と江原道の野生いのししから ASF ウイルス検出（野生いのしし 484-485 例目）

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1363360&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

□環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は4月3日に京畿道（キョンギド）坡州市（パジュシ）津東面（チンドンミョン）、江原道（カンウォンド）華川郡（ファチョンゲン）上西面（サンソミョン）で発見されたイノシシ死体2個体から ASF ウイルスが検出されたと4月5日明らかにした。

□国立環境科学院は4月5日死体2個体から ASF ウイルスを検出したことを関係機関に通知した。これで華川郡（ファチョンゲン）189件、漣川郡（ヨンチョンゲン）181件、坡州市（パジュシ）89件、鉄原郡（チョルウォンゲン）23件、楊口郡（ヤングゲン）2件、固城郡（コソンゲン）1件、合計485件のイノシシ ASF 陽性事例となった。

○野生イノシシ ASF 標準行動指針により試料採取後現場消毒と共に死体は処理された。

□国立環境科学院は「今回陽性となった死体は全て2次フェンスの中で発見され、既存感染個体発見地点と400~700m近隣しており、この地域では感染死体がさらに出てくる可能性が高く、徹底的に搜索している」と明らかにした。

以上